

保育心くあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本律秀 編集者 有松 徹



【写真を提供していただいた保育園】
あすなろ、信明、にじのはな、笹丘コスモス、みやけ

vol.126 令和3年度 1号

理事長・副理事長挨拶	2~3
協会役員、事務局、保育士会の紹介	4
春の叙勲	5
広域利用に関する要望書提出	5

求人情報	6
ワクチン接種	6
新園紹介	7
コラム	8
編集後記	8



理事長あいさつ

城浜保育園 園長 増本 律秀



今期より篠原先生の後をお受けして理事長の任に就かせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

今期は、理事が大幅に交代することになりましたが、新理事の方々を適材適所各部に配属させていただき大変心強く思っております。会員の皆様にも安心感をもって受け入れていただいたのではないかと思います。これから理事一同、理事会の運営を強化しながら一糸乱れず、一丸となって福岡市保育協会の運営に尽力していこうと考えておりますが、保育協会は会員お一人お一人が主役でありますので、皆様よりご意見、ご要

望等を頂きながら、協会が皆様の法人、施設運営にとつてお役に立てるものにしていきたいと思えます。又、これまでの歴代理事長が築かれてきた尊い伝統を踏襲しながらも、新たな時代のニーズ、変化に柔軟に対応していく事も辞さず運営していきたいです。さらには、協会と関係の深い保育士会や青年部そして協会事務局の皆さんとも連携や信頼関係を深め、協会の事業を協力して運営しながら、次世代のリーダーを育成することにも目を向けていきたいと思えます。そして、福岡市当局とも親密にコンセンサスをとりながら、これからの福岡市の保育運営について車の両輪として協力体制をより強化していきたいとも考えております。

さて、昨年度より新型コロナウイルスの感染が全世界で拡大し、生活様式や価値観が一変しました。密を避けるためにリモートでの仕事が増え、各企業で

は少しずつ体制を構築しております。しかし認可保育園は、これまで就労支援や子育て支援等の大きな役割を担い、様々な社会のニーズに答えてきましたが、コロナ禍の中でさらに社会を支えるために7つのエッセンシャルワーカーの1つとして、感染予防対策に最大限配慮しながら子どもを受け入れ、保育を継続していきます。朝夕の子どもの受け渡し態勢や日中の保育で密を避けるための工夫をしながら、年間行事も縮小や中止するなど、これまでの慣例についても見直す機会となりました。どのような状況になっても、子ども一人ひとりに向き合い、寄り添いながら質の高い保育ができる環境を整えることこそ、子どもの最善の利益を守ることに繋がると考えます。

業の運営にも大きな影響が及びました。研修会の中止、規模の縮小、就職フェアのリモートでの開催など、様々な工夫を凝らしましたが、今年度も未だコロナの終息が見えない中、リモート研修会開催の環境を構築する等、キャリアアップの受講機会を確保する事にも力を入れていきたいと思えます。

そのための制度や財政面の保障については、今後福岡や福岡市に提言、要望していきたいと思えます。さらに保育協会の運営についても、昨年はコロナ禍で事

新子育て安心プランが令和3年度より6年度末までの4年間実施されることになり、この中には4年間で約14万人の保育の受け皿を整備することが盛り込まれていますが、人口減少地域の保育の在り方も同時に掲げられています。各地の状況は一様ではなく、待機児童対策と同様に人口減少地域における保育の確保は、喫緊の課題です。この福岡市でも少しずつ少子化の波が押し寄せており、今後は地方の状況により個別の対応を当局と交渉していく事になると思えます。又、公定価格が令和3年度の人事

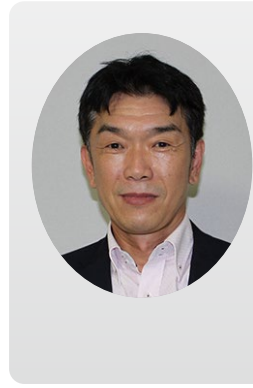
院勧告で減額となった場合の対応についても、保育士の平均賃金が全産業の平均値と比較して低い水準にあること、又コロナ禍で奮闘している保育現場で従来よりも増して人材確保が困難になっていく事などを鑑み、処遇が低下しないような措置を要望していく必要があると思います。いずれにしてもこのような取り組みは、全国、九州、県、市の各保育団体と連携を図り積極的に活動していきたいと思えます。

皆様のご理解、ご協力を頂きながら協会に新風を吹き込みたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



副理事長あいさつ

今宿保育園 園長 阿部 克伸



この度、副理事長を仰せつかりました。過大な立場であることを重々肝に銘じ、会員の皆様、保育園職員の皆様、また、福岡市を始め御関係者の皆様の良きパイプ役となるよう、そして理事の皆様をサポート役として協会の円滑な運営へ尽力させて頂ければと存じております。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

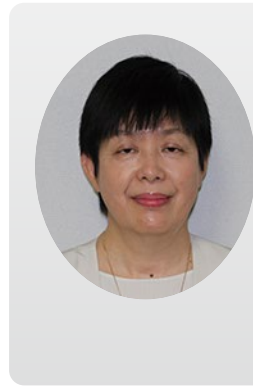
コロナ禍に於きましては様々な戸惑いと新しい取り組みが交错し、疲弊も多い中、時代が速いスピードで変わっており、保育業界に限らず、大変な日々が続いておりますが、リモートやオンラインを中心に新しい業務の在り方も随分進んできたと思えます。慣例的に人が集まる場面に於いて

各々の意義や形式について改めて考えさせられ、再構築を求められる時も多く、日々手探りの中でも業務の効率化への良いきっかけにもしていききたいものです。その上で以前のように気兼ねなく人が集まれる時が早く戻って来る様、願っております。

また、今日の福岡市内の認可保育園に置かれましては少子化の影響も進み、在園児数の状況も数年前とは大きく変わりました。全国的な流れでもありますが、地域における認可保育園は子育てのノウハウの宝庫として多機能化の取り組みも始まっており、行政でも議論が進んでおります。保育現場の業務の改善や各スタッフの分担の見直しも進めながら、地域における保育園の新しい役割も考えていかないといけない時代に入ってきたように思います。もちろん保育の質の向上を第一に、新しい時代の保育を皆様と考えていければと思っております。それでは改めまして今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

副理事長あいさつ

こくま保育園 松本 みほ



昨年からのコロナ禍で、各園の先生方は、子ども達の成長・発達に向けて、日々の保育にご尽力されていることと思えます。コロナ禍に於いて、今までと違う生活が始まり、園生活も感染拡大防止に追われ行事のあり方への見直しを行うなどご苦労も多かったのではないのでしょうか。

しかし、この体験は「保育園の役割」について再認識する機会となりました。保育所保育指針の中で、保育所は保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮することなどがうたわれています。また、子ども達は人との関

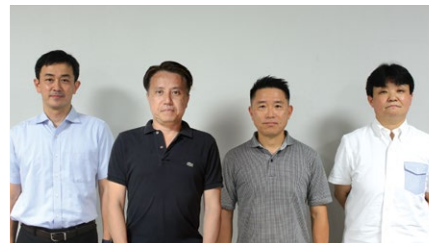
わりの中で成長していくものですが、人と人となりがることが難しくなり、より一層人と関わり合うための努力や工夫をすることが大切になってきました。更に、コロナ禍で人々の安心・安全な状態が脅かされ育児不安や児童虐待の件数も増加傾向にあり、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子ども達の保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割についても再認識していかねばなりません。

最後に、その役割を果たすには保育園で働く職員が安心して仕事に取り組み、充実感を持てる職場環境づくりについて取り組むことも忘れてはならないと思ひます。

この度、副理事長という大役を拝命いたしました。私自身、力不足ではありませんが、全力で取り組む覚悟ですので、協会の運営について皆様の協力をよろしくお願ひ申し上げます。

福岡市保育協会
理事会組織とメンバー

総務部



部長 佐野正人・高田史敬・有松 健・田中美日

研修部



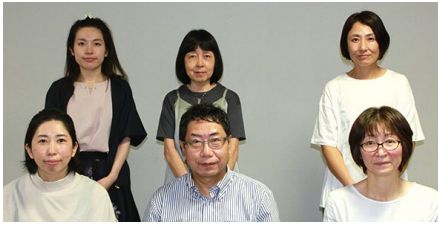
部長 渡邊由美子・中村尚子・上里利香・篠原敬一・手島恵美子

予算運営管理部



部長 針間和枝・春田雅孝・田代健太郎

協会事務局



日野那々子・赤木ひとみ・福川しのぶ
事務局長
中村昌子・百武隆典・宮原悦子

監事



拈田充生 水城一俊

広報調査部



日野充子・柿迫美穂・有松 徹・古川保浩・松枝智子・山口 恩
部長

福岡市私立保育士会
会長挨拶
平野 理江

福岡市私立保育士会会長、二期目を務めさせて頂いていただきます。いつになっても、どこに行っても、コロナごあいさつがまだまだ続いています。さて、そのコロナによって失ったものもたくさんあります。しかし、改めて見直しを余儀なくされたことで、プラスに転じたこともあるようです。保育内容もその一つ。

昨年度末に福岡市保育連盟で、全保協ブロック保育協議会が行う人材養成支援事業の一環として『コロナ禍における保育の取り組み』を出し合っている。それを冊子にまとめたものが完成し各園に配布されました。当時、総務部長の西尾先生から「保育士会で」とお声掛けいただいた時には、コロナ禍の保育を取り組むだけでいっぱいになっている私たちに、それをまとめるという余力があるのか、と不安を感じつつ、役員の皆さんに振りました。(振るだけでいい、会長職の良さを感じたのはこの時だけかも…笑)
各区2名の役員さん×7区=14の保育園に取り組みを文字と写真で表してもらいましたが、さすが主任保育士の皆さんです。園長先生方のご理

解やご指導にも支えられ、とても素晴らしい。福岡市のコロナ禍保育取り組み集ができました。

新しい年度を迎え、各園でも新しい職員や子どもたちも迎え、再確認した保育を進めておられることでしょうか。保育士会でも新しい役員さんに交代し(一部、留年?笑)、再確認した取り組みを始めていくところなんです。全国保育士会の倫理綱領にもあるように、私たちは、子どもの育ちを支えます。
私たちは、保護者の子育てを支えます。
私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくりたい。

子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きていく力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持ちましょう。前述の冊子が福岡市の保育、保育者の質の高さを物語っています。

今年も、自らの人間性と専門性の向上に努めるための研修会の企画と実施に取り組みます。会員の皆様お一人お一人が参加企画してこそその保育士会です。ともに手を取り合っ、コロナも乗り越えましょう。
保育園園長先生、保育施設施設長様、今後とも保育士会へのご理解とご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

福岡市私立保育士会役員名簿(令和3年度)

Table with 2 columns of names and roles, including positions like 会長, 副会長, 書記, 庶務, etc.



春の叙勲受章

おめでとうございます

祝 瑞宝双光章



オリブ 保育園 久保田 美知子

この度、春の叙勲において身に余る瑞宝双光章を受章いたしました。

これもひとえに長年にわたってご指導・ご厚情をいただいた保育協会役員の皆様をはじめ会員の皆様のおかげだと深く感謝しお礼を申し上げます。

私、ご縁をいただき余多愛育園で保育の道に入り保育の基礎や保護者、地域支援の方法を学ばせて頂きました。また、保育士、主任保育士、園長と様々な経験をさせて頂き、

多角度から保育園を見ることで、幅広く奥深い保育の魅力を感じる日々でした。

そんな時、福岡市内の待機児童対策として平成十四年九月の市政だよりで新設園の公募があり、身の程知らずで応募しました。

社会福祉法人を立ち上げ、平成十六年四月にオリブ保育園を設立しました。その後、園児の増加で定員増を繰り返すのも限界となり、平成二十八年に第二オリブ保育園を設立し、現在に至っております。

たくさんの子どもたちや保護者、職員、地域や行政の方々、そして保育協会の会員の皆様と出会えたことは私の宝となっています。

保育園の仕事は楽しくやりがいが多く、ちよつとつまずいた時でも子どもたちの笑顔や元気が前に進む勇気を与えて

くれます。

受章を機に振り返ると、この歳月は本当にあつという間でも、今日まで保育の道を進む事ができたのも、出会った方々の温かさと子どもたちからもらうパワーのお陰です。

今、世界中がコロナ禍で大変困難な中で受章となりました。改めて「命」の大切さと責任の重さを考えさせられる毎日です。

今後この受章を励みとし、未来を担う子どもたち一人ひとりの心に寄り添いながら、子どもたちが健やかに成長できるように見守っていきたく思います。あわせて、保護者の皆様が安心して働くことができ、保育環境を目指し、研鑽を重ねて参りたいと思います。

受章に対し、保育協会会員の皆様から祝意をいただき誠にありがとうございました。

祝 瑞宝双光章



隅田 保育園 木林 純子

令和三年春の叙勲に際し、図らずも瑞寶双光章受賞の榮譽に浴しました。

これも偏に長年に亘って皆様方よりいただきましたご支援ご厚情の賜物と深く感謝いたします。

このようなご時世ですので、皇居に赴くことができませんが、勲記と勲章を手にした際は、緊張と責任と喜びが入交り複雑な心境でした。

好きな仕事だったので、長年にわたり携えられたのだと思いますしこの道を勧めてくれた両親や姉に今さらですが感

謝します。

保育を取り巻く環境は、日々変化していきませんが、変わって行かないものを、しっかりと見極めて子どもと保護者に寄り添う保育をさらに目指していきたいと思

います。



祝 瑞宝単光章



えん 保育園 副園長 篠崎 信子

この度は、令和三年春の叙勲で、身に余る瑞宝単光章を受章し有難く拝受いたしました。

これまで長きにわたって支えていただいた、多くの皆様方の心温まるご厚情、ご支援に心より深く感謝申し上げます。

保育の道に入りまして48年。長い間児童福祉の業に携わるなかで、新保育所保育指針の改正、小規模保育の増設、新園舎改築などと共に社会福祉情勢の大きな変動のなかで、喜びや苦楽を体験しながら得た賜物は計り知れない大きな恵となりました。

これからの園の保育理念である「子どもは未来の希望である」を掲げて、ひとり一人を大切に「子どもの最善の利益」とおなじように「職員の最善の利益」につながるように精進していく所存でございます。

この叙勲を糧に子ども達の笑顔に包まれ、地域から愛される保育園として、もう少しこの保育という仕事に関わっていきたいと思

います。微力ですが、今後とも変わらぬご指導のほど、よろしくお願

「市外からの広域利用に関する要望書」を増本理事長から

高島市長にお渡ししました。

7月27日(火)

要望の内容は、「受け入れ児童数の拡大による市内保育園の経営安定と、周辺自治体の待機児童の解消に寄与するため、市外からの広域利用の検討」を求めます。

要望に際し、増本理事長から改めて保育従事者へのワクチン優先接種へのお礼を述べた後、春田予算運営管理部長から「市の周辺部では、入所児童数が定員数をかなり割り込んでいる園が複数あること。このような状態が恒常化すると、園の経営にも影響が出かねないこと。」など要望の趣旨を説明しました。

多くの報道機関が取材に訪れ、高島市長はコロナ禍での保育従事者へのお礼の後、「子どもたちのために保育園の安定運営は大事であり、要望をしっかりと受け止め回答したい」と述べられました。



求人サイト創設
就職フェアがでぎずとも

保育協会青年部部長 古賀圭一郎

平成27年から始まった保育協会主催の就職フェア。当時から青年部が主体となつて、運営に関わらせていただいていた。そして、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大により初めての中止となりました。例年であれば、年末年始あたりから企画・準備に入りますが、今回は昨年同様中止を視野に入れ、どういう取り組みができるかを青年部内で検討していました。昨年はアクロス福岡での実施を見送る代わりに、代替策としてズームを利用した「オンラインフェス」を実施しました。47園にご参加いただき、約50名の求職者を呼び込みました。結果としては当初の狙い通りとはいきませんでした。その時苦勞された参加園の方・青年部メンバーの努力は、今年度の企画を考えるにあたり大いに役立ちました。

就職活動ではスマホを使うのが当たり前の時代。見たい動画は自分が都合のいい時間に視聴できます。学生の側に立てば当たり前のことですが、こういった動向を十分に把握できていませんでした。ある程度学校からの強制力があつて参加が多かったこれまでのような就職フェアができない中で、自宅でスマホまたはパソコンを利用する学生が主たる求職者たちと、どのようにして接点を増やしていくか？これが課

題です。

そこで、今年度取り組んでみるのが「専用求人サイト」の立ち上げです。9月から11月までの3か月間、好きな時に閲覧し、市内の保育園の情報が自由に見られるサイトです。問い合わせは本人が気になった園に直接連絡してもらおう形です。今回、大手求人サイト「保育士バンク!」を運営するネクストビートの業務支援を受けています。保育協会のホームページでも園の検索はできますが、それでは人がなかなか集まらないのが現実です。特定のサイトにより多くの求職者を集めるには様々なノウハウがあり、それらをできる限り活用させてもらうのが今回の業務支援の目的です。ネクストビートは

人材派遣・紹介業も扱っていますが、このサイトをきっかけに問い合わせのあつた求人に対しての費用は、一切発生しません。サイト掲載にあつた費用のみです。福岡市子ども未来局からの協力もいただき、福岡市で保育士として働くことの魅力を伝えるコンテンツの作成に関わっていただきます。年々保育士の採用コストは増えている傾向にありますが、限られた原資を有効に活用する手段として、広く自園のことを周知する手段として、この福岡市独自の専用サイトを利用していただきたいと思っています。

ウイズコロナやアフターコロナの時代を目の前にして、各園それぞれの努力だけでは解決できない問題も、保育

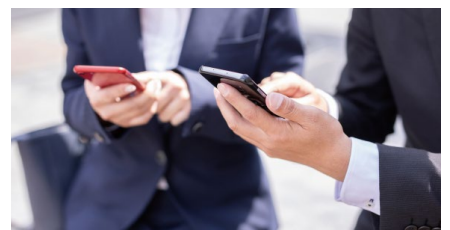
保育従事者コロナワクチンの優先接種について

機関紙委員 宮岡(桜坂保育園)

6月上旬より、全国に先駆け福岡市の独自政策による保育従事者のコロナワクチンの優先接種が始まりました。医療従事者や介護職員、高齢者の次に優先接種を受けられる事は職員自身の軽症化は元より、園児に感染を広げるリスクが少なくなる為、保育に携わる者として大変ありがたい事となりました。また、当初は施設長、副園長及び保育従事者のみの接種となっておりましたが、事務員や調理員、警備員等も福岡市の計らいにより優先接種を受け

さて、ワクチン接種場所としてマリオンメッセB館(のちにクルーズセンター)等複数の施設が追加)にて接種が行われました。接種会場では、受付前の待機の後、受付へと進みます。受付後、検温、予診そして接種とスタッフのスムーズなオペレーションにより接種を終える事が出来ました。接種後の待機(15分〜30分)では、体調不良を訴える方は当初聞いていたよりもそれほどいかなかった様です。但し、接種後の副反応については1回目から、腕の痛みと痺れ、発熱や倦怠感等の症状が出たようです。2回目はその症状が多

少ひどくなり、1〜2日程度休む方もいらつしやつた様です。多少の副反応はあつたものの、現場の保育士からは「この1年、自分が子どもにうつしたらと心配だった。接種を受けられてほつとした」等の安堵の声が聞かれました。また、接種自体が長期に渡り分散された事で、職員体制に影響が少なかつたことも良かったと思います。今自身の体調の問題や周囲の不安からワクチン接種を行わなかつた方も体調が回復したり、受けたいと思ひ直したときには、すぐに受けられるよう対応してもらえました。ワクチン接種が普及し、安心して子ども達に保育が出来る日が来るのを1日も早く願います。



NEW!! 新園紹介

地球の子ゆたか保育園 (西区)

園長 岩本 てるみ

定員 90名

令和2年4月より開園させていただきました「地球の子ゆたか保育園」です。本部は新元号令和にまつわる太宰府にあります。大きな変革期を迎える社会をこども達が生き抜いていけるよう、愛され守られ大切に育てられ、子ども達一人一人が自己肯定感を持って育つて欲しいと心から願っています。また子ども達が育つ環境に加え保護者、職員も共に成長できる場でありたいと考えており、次の時代を作る大切な子ども達に責任感を持ってスタート致しました。仲間に入れていただいたことに感謝を申し上げますと共に、どうぞ宜しくお願い致します。



まぶね保育園 (西区)

園長 岡村 純子

定員 70名

2020年4月1日より、5年間の小規模保育事業所「学研都市まぶね保育園」を経て、就学前までの認可保育所「まぶね保育園」を開園しています。

乳児では、「家庭的な雰囲気」の保育室の中で、食事・排泄・睡眠を同じ保育士が抱い子どもが安心して身をゆだね生活できるように一人ひとりの成長を援助し見守っています。

幼児では、長時間生活を共にするためにコミュニケーション力を養うことに重きを置き、知的な教育的基礎を培うために異年齢縦割り保育を行っています。

また、日々の礼拝の中で、神様から自分を守られ感謝することを学んでいる子ども達は、地域の方々にも優しく見守られ受け入れて頂き、有難く思っています。

子どもが主役、という考えのもと、保護者と保育士が手を取り合って、添え木の役割を果たしていきたいと願っています。



たんすい和白保育園 (東区)

園長 五十嵐 久朗

定員 90名

たんすい和白保育園は令和2年4月に博多区にある「淡水幼稚園」「たんすい保育園」の姉妹園として開園いたしました。子ども達が元気に登園できる明るい玄関、窓も大きくお日さまの光がたくさん入る園舎です。

玄関には大きな水槽があり、海の魚たちが子ども達を出迎えてくれます。子ども達の人気スポットでおうちの方と離れるのがさみしい子ども達に笑顔になります。

園庭も大きくのびのびと体を動かす事ができ、走ったり体操をしたりと体力作りにも力を入れています。

保育士だけでなく看護師、調理師、栄養士様々な職種の先生たちが一丸となりそれぞれの特技を活かした活動を取り入れながら子ども達と共に喜び、笑い、時には気持ちを止めながら「自分たちで考えて行動できるチカラ」を育てている保育を心がけています。



夢の木保育園 (東区)

園長 池田 祐樹

定員 90名

当園は、2020年4月に東区馬出に開園をいたしました。「個性の芽を摘まない」を保育理念とし、子どもたち一人一人の違いに合わせた「丁寧な保育」をコンセプトにしています。

理念とコンセプトに基づき、保育士が優しく温かく穏やかな気持ちで子どもたち一人一人と向き合う時間を確保するためには、保育者の労働環境の改善が力ギとなります。そのため当園では年間行事の抜本的な見直しをはじめ、日常業務のICT化とアウトソーシングを積極的にすすめて、職員が子どもたちと向き合う時間に集中できるように取り組んでいます。

「子どもたち、保護者の皆様の笑顔は、保育者の笑顔から」

保育者が心から笑顔になれる環境づくりから、子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様へと笑顔の連鎖をつくってまいります。ようすくお願いたします。



室見ガーデン保育園 (早良区)

園長 今村 永江

定員 90名

早良区小田部中央公園の東側に、令和2年4月に開園いたしました、学校法人光寿学園「室見ガーデン保育園」です。

「こもに生き、こもに育ちあつ」の精神のもと、乳幼児期に心ざわしい「あそび」と「まなび」を先生やももたちと日々経験するなかで、基本的な生活習慣を身につけます。社会や家庭で多くの人と関わりを持ちながら生活していく中で大切な人としての思いやり、感謝の心、礼儀、善悪など一人ひとりの思いを受け止めながら、みんなで考え、道徳心を育てます。子どもが安心して過ごせる環境において自らの課題と生きる意味を知り、子どもも大人も自己の存在を喜びながら成長できる保育園を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



三筑どろんご保育園 (博多区)

園長 北原 由美

定員 120名

2021年4月、博多区三筑に開園しました「三筑どろんご保育園」です。

全国約140箇所認可保育園、院内・事業所内保育所、児童発達支援事業所、子育て支援施設を運営するどろんご云グループの、九州地方で2園目となる認可保育園です。

子育て理念は「にんげん力。育てます」そのために必要な遊び、自然体験を提案、実践し、子どもたちに「自分で考え、行動する思考」を育みます。

土管のトンネルや草スキーもできる斜面、築山のある園庭——豊かな自然の中、子どもも大人も毎日わくわくしながら楽しい園生活を送っています。どなたでもご利用いただける子育て支援施設「ちきんえっく」もあります。ぜひ一度遊びに来てください。



コロナ経験に勝る学びなし

恵愛ソレイユ保育園
園長 長尾真司

暦の上では、もう秋を迎えています。夏と夏と言えば8月！

園庭では毎日、子ども達が照り付ける日差しの下、汗をかきながら蝉を追いかけ、プールで涼み、どろんこあそびやスイカ割りなど、夏ならではのあそびを楽しんでいます。

無邪気にあそんでいる子ども達の姿を見ると、遠い昔の思い出がよみがえります。



私の幼少期の夏は、生まれ育った

糸島で、朝早くから山へカブトムシやクワガタを捕りに行き、昼は海で泳ぎ、夜は波止場で夜釣りや海岸で花火と、田舎ならではのあそびを朝から晩まで楽しみました。

楽しむことは勿論のこと、木に登り枝にぶら下がったり、海沿いのテトラポットを飛び回り波止場から海に飛び込んだりすることで、チャレンジする心や自分を信じる心もあそびの中で自然と身につきました。

幼少期の体験に伴う情報は、とても大きなものと言われます。幼い私も、五感、あるいはその場の雰囲気を通して、体全体で吸収し身に付けていったのだと思います。

田舎の大自然とまではいきませんが、本園のようなビルに囲まれた保育園であっても、子ども達が自由に発想し、ワクワク・ドキドキの好奇心を持ち、自信や勇気が自ずと身につくような環境を整えながら、これからの保育に取り組んでいきたいと思えます。

園および園児をさまざまなリスクからサポートします

園経営には、さまざまなリスクが伴います。公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」
「新型コロナウイルス等対応費用補償特約(2021年4月以降)」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

〈連絡先〉 公益社団法人全国私立保育連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レビュテーション費用保険(レビュテーション費用特約条項付 費用・利益保険)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



やくいんのほけん

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレビュテーション(風評被害)リスクに関する保険となります。

20-TC09526 2021年2月作成

編集後記

本号より機関誌編集委員が新たなメンバーとなり、この編集後記は編集委員持ち回りで執筆することになりました。急なことで驚きつつも、何を書こうか考えていると、タイミングよく自園の園庭にスズメの巣ができていたことを思い出しました。テント上に巣を作り始めたスズメたち。お昼寝の時間に元気な声で鳴き、巣を作るための雑草やゴミをテラスに落とし、少し迷惑だなと思うこともありましたが、しかし、雛が孵り、飛び立つ練習をしている様子は、子どもたちのよちよち歩きを見ているようで、微笑ましく、かわいいなあと思っていました。

皆様にもぜひ、このかわいらしいスズメたちの姿を文字と写真でお伝えしようと考え、さっそく写真を撮ることにしました。しかし編集委員会の次の日、朝からスズメたちの鳴き声が聞こえてきません。「おかしいな」と思い、脚立に乗って巣の中を覗いてみると、なんとそこはもぬけの殻。スズメたちが巣立った後でした。

2ヶ月弱の間、毎日元気な声で鳴き続けていたのに、まさかこのタイミングで巣立っていくとは…。何事においても、タイミングと瞬発力が大事だと感じさせられる出来事でした。

機関紙委員 高山
(信明保育園)



～感想やご意見はこちらにお送りください～

【保育協会メールアドレス】kyoukai@hoiku.or.jp